

## 特集 「都市論への挑戦」

地球温暖化という人類が自ら引き起こした生存の危機は、近代資本主義文明によって引き起こされたことが各方面から指摘されている。そのなかで、近代都市も資本主義が造り出した文明の代表的な一形態と言えるだろう。都市は資本の投機の間となり、土地が売買され、収益目的の建物がつぎつぎと建設される。建物の寿命は人間の寿命の半分もなく、30年か40年経てば取り壊される。流動的で刹那的で循環的な人間の活動をハンナ・アレントは「労働 labor」と呼び、それに対して耐久性をもつ世界 world の建造である「仕事 work」と区別している。アレントによれば、労働と仕事のいずれも「人間の条件」の一つではあるが、近代は「労働」による短期的な資本の循環に著しく偏った体制を築いてしまった。資本の循環はもはや世界の隅々にまで及び、地球生態系の循環システムを脅かしている。20世紀に発明された近代都市が大きな転換点に立っていることは明白だろう。では、この先都市はどこへ向かうのだろうか？ 新たな都市論が待望されている。

田路 貴浩